



SY-1000 GUITAR SYNTHESIZER

取扱説明書



取扱説明書（本書）

最初に読んでください。使いかたの基本操作を説明しています。

PDF マニュアル（Web からダウンロード）

• リファレンス・マニュアル

本機のすべてのパラメーターについて解説しています。

• サウンド・リスト

本機に収録されている音色のリストです。

• MIDI インプリメンテーション

MIDI メッセージの詳細資料です。

PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。
<http://jp.boss.info/manuals/>
2. 製品名「SY-1000」を選んでください。

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書（P.21））をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2019 Roland Corporation

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

目次

準備する	3
機器を接続する	3
電源を入れる／切る (POWER スイッチ)	3
Auto Off 機能	3
各部の名称とはたらき	5
お使いの楽器 (ギター／ベース) を選ぶ (MODE SETTING)	6
出力端子に接続する機器を選ぶ (OUTPUT SELECT)	6
ピックアップの設定をする (GK SETTING)	7
ピックアップ・タイプを選ぶ	7
スケール長を設定する	8
ピックアップの配置を設定する (ベース・モードのみ)	8
ブリッジからの距離を設定する	9
ピックアップの感度を設定する	9
チューニングをする (TUNER)	9
チューナーの設定をする	9
基本操作	10
ディスプレイ (プレイ画面)	10
アイコンについて	10
画面操作について	11
操作例 1 (INST 画面)	11
操作例 2 (INST エディット画面)	11
操作例 3 (EFFECT エディット画面)	11
パッチ (音色) を切り替える	12
SY-1000 の構成とパッチ	12
バンクの種類について	12
パッチの種類について	12
パッチを選ぶ	12

パッチをエディットする	13
INST を変更する	13
INST をエディットする	13
全パラメーターを表示してエディットする	13
エディットした INST の設定を保存する (VARIATION)	14
保存した INST のバリエーションを呼び出す	14
エフェクトをエディットする	15
エフェクト・エディットの基本操作	15
全パラメーターを表示してエディットする	15
エフェクトを並び替える	15
エディットしたエフェクトを保存する (VARIATION)	16
保存したエフェクトのバリエーションを呼び出す	16
フットスイッチ、エクスペッション・ペダルに機能を割り当てる	17
エフェクト・エディット画面からアサインを設定する (クイック・アサイン)	17
パッチを保存する	18
SY-1000 全体の設定をする (システム・パラメーター)	19
SY-1000 の設定	19
本機を工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット) ..	19
オート・オフ機能をオフにする	19
主な仕様	20
安全上のご注意	21
使用上のご注意	21

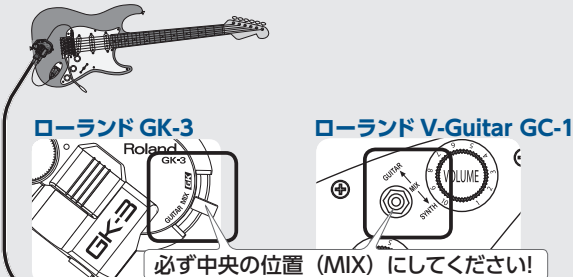
準備する

機器を接続する

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

GK IN 端子

ローランド・ディバイデッド・ピックアップ GK-3 / GK-3B などを装着したギターやベース、またはローランド V-Guitar GC-1 などの GK 対応ギターを接続します。
GK IN 端子へはディバイデッド・ピックアップの信号のほか、通常のギター信号（ノーマル・ピックアップ）が入力されます。
※ 専用の GK ケーブル以外は絶対に接続しないでください。



GUITAR INPUT 端子

通常のギターを入力するときは、この端子に接続します。
※ 標準プラグで接続した場合は、DYNAMIC SYNTH 以外の INST とオルタネイト・チューニング機能は動作しません。



DC IN 端子

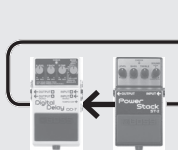
AC アダプターを接続します。
※ AC アダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。



インジケーター →

SEND / RETURN 端子

外部エフェクトなどを接続します。



USB 端子

市販の USB2.0 ケーブルでパソコンに接続します。専用のエディター・ソフトを使ったり、USB MIDI と USB オーディオの情報をやりとりしたりすることができます。
パソコンに接続するには、USB ドライバーをインストールする必要があります。

USB ドライバーは、ボスのホームページからダウンロードしてください。詳しくは、ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をお読みください。

<https://www.boss.info/jp/support/>

➡ 設定方法については、『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。



電源を入れる／切る (POWER スイッチ)

電源をオン／オフします。

※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

Auto Off 機能

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください。

※ 電源が切れると編集中的の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。

※ 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

➡ 設定方法については、『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

MAIN OUTPUT 端子／SUB OUTPUT 端子

ギター・アンプ、PA（ライン）またはヘッドホン（別売）に接続します。

※ ヘッドホンは MAIN OUTPUT の L/PHONES 端子に接続してください。

※ モノで出力するときは、R/MONO 端子だけに接続してください。

※ ヘッドホン使用時は R/MONO 端子には何も接続しないでください。

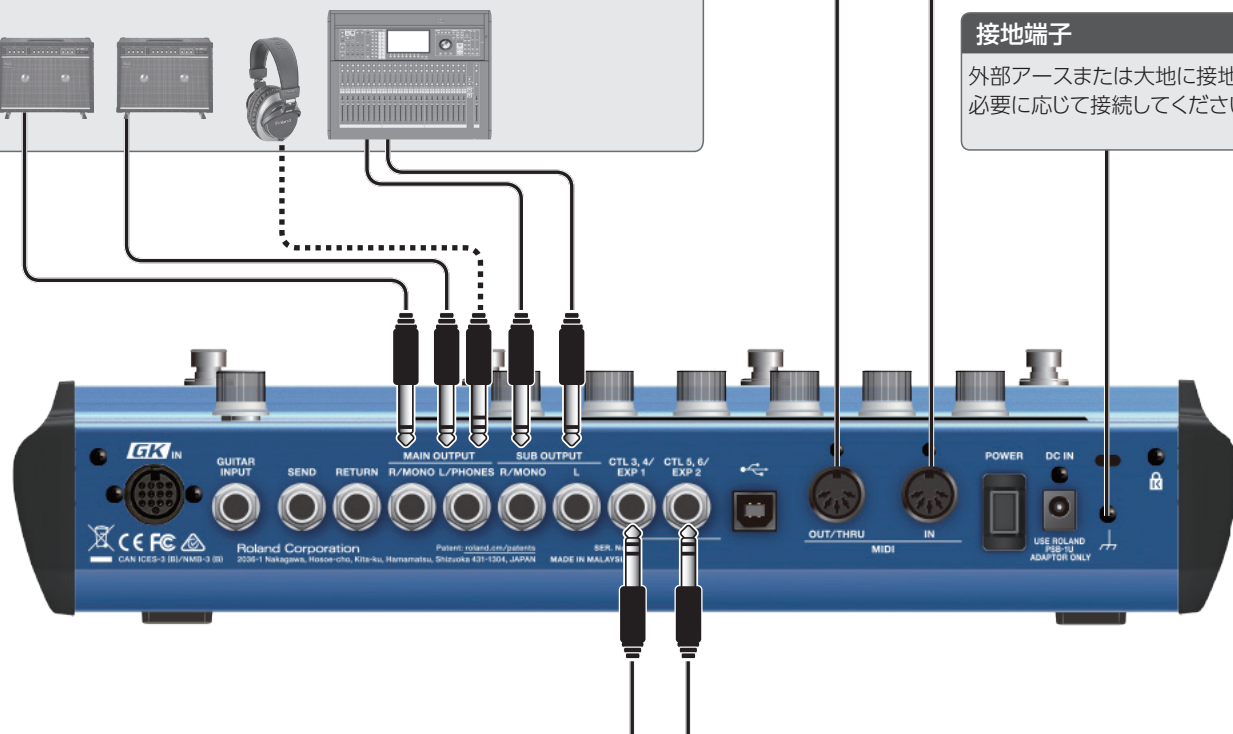
MIDI IN、MIDI OUT/THRU 端子

外部 MIDI 機器を接続します。

→ 詳しくは、『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

接地端子

外部アースまたは大地に接地します。
必要に応じて接続してください。



CTL 3, 4/EXP 1、CTL 5, 6/EXP 2 端子

エクスプレッション・ペダル（別売：EV-30、FV-500L、FV-500H、EV-5）やフットスイッチ（別売：FS-5U、FS-6、FS-7）を接続して、さまざまな機能をコントロールすることができます。

→ 設定方法については、『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

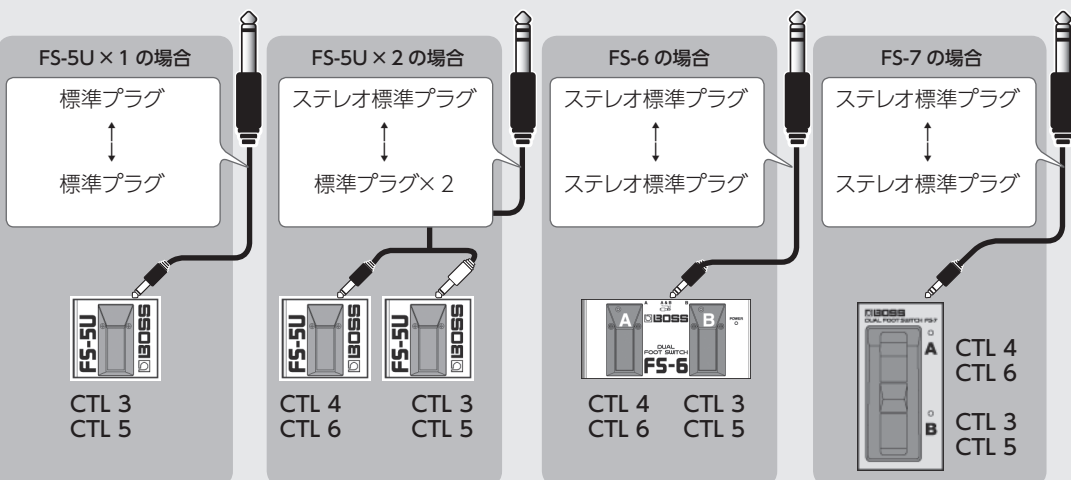
EXP1、EXP2 端子として使う場合

エクスプレッション・ペダルを接続します。

CTL 3,4、CTL5,6 端子として使う場合

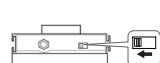
フットスイッチを接続します。

※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：EV-30、FV-500L、FV-500H、EV-5）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

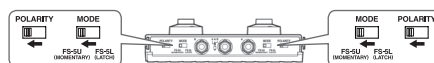


モード／ポラリティー・スイッチ

FS-5U



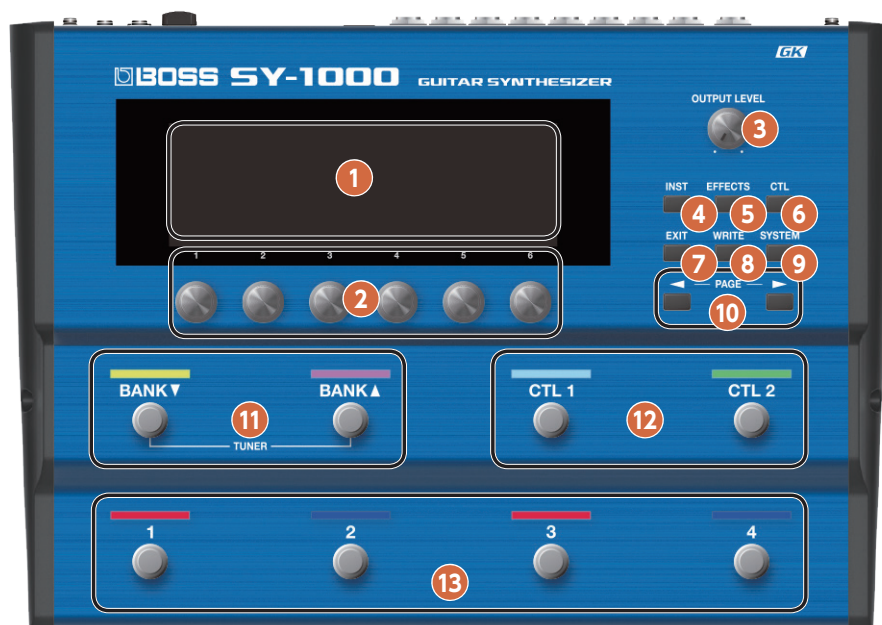
FS-6



FS-7



各部の名称とはたらき



番号	名称	はたらき	ページ
1	ディスプレイ	SY-1000 のさまざまな情報を表示します。	P.10
2	[1] ～ [6] つまみ	ディスプレイに表示されたパラメーターの設定値を選んだり変更したりします。	P.11
3	[OUTPUT LEVEL] つまみ	MAIN OUTPUT の音量を調節します。 ※ 設定の切り替えによって、MAIN OUTPUT と SUB OUTPUT の音量を同時に調節することもできます。 [SYSTEM] ボタン → HARDWARE SETTING → KNOB → OUTPUT LEVEL KNOB	-
4	[INST] ボタン	INST (音源) の音色を設定します。	P.13
5	[EFFECTS] ボタン	エフェクトの設定とエフェクトの接続順を設定します。	P.15
6	[CTL] ボタン	CTL 画面を表示します。ボタンやスイッチに機能を割り当てることができます。	P.17
7	[EXIT] ボタン	前の画面に戻したり、操作を取り消したりするときに使用します。	-
8	[WRITE] ボタン	パッチの設定を記憶したり、入れ替えやコピー操作を実行したりするときに使用します。	P.18
9	[SYSTEM] ボタン	SY-1000 全体に対する設定をします。	P.19
10	[◀] [▶] (PAGE) ボタン	ディスプレイの表示画面を切り替えます。	P.10
11	BANK [▼]、BANK [▲] スイッチ	バンクを切り替えます。	P.12
12	[CTL 1] [CTL 2] スイッチ	パッチごとに設定した機能をコントロールします (初期値)。	-
13	[1] ～ [4] スイッチ	パッチを切り替えます。	-

お使いの楽器（ギター／ベース）を選ぶ (MODE SETTING)

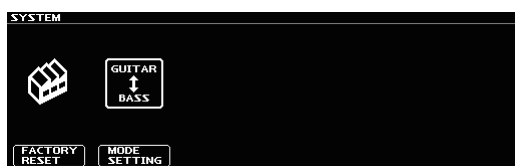
SY-1000 にギターをつないで使うか、ベースをつないで使うかを選びます。

ギターをお使いの場合はギター・モード (GUITAR)、ベースをお使いの場合はベース・モード (BASS) を選びます。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。



2. [◀] [▶] (PAGE) ボタンを押して、「MODE SETTING」アイコンを表示します。



3. [2] つまみを押します。

メッセージが表示されます。



4. モードを変更する場合は、[6] つまみを押します。

操作をキャンセルする場合は、[5] つまみを押します。[6] つまみを押したときは、メッセージが表示されます。



5. SY-1000 の電源を入れ直します。

操作をキャンセルする場合は、[EXIT] ボタンを押します。SY-1000 が設定したモードで起動しているかを確認します。

メモ

- 工場出荷時は「GUITAR」に設定されています。
- SY-1000 は次回モードを切り替えるまで、選んだモードで起動します。
- 選んだモードによって、表示が異なるパラメーターがあります。
- ギター・モードとベース・モードでそれぞれにパッチが保存されます。

出力端子に接続する機器を選ぶ (OUTPUT SELECT)

出力端子 (MAIN OUTPUT、SUB OUTPUT) に接続する機器を選びます。接続する機器に応じて、最適な特性になるように調整されます。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。

2. [◀] [▶] (PAGE) ボタンを押して、「IN/OUT SETTING」アイコンを表示します。



3. [2] つまみを押します。

IN/OUT SETTING 画面が表示されます。



4. [3] つまみ、または [4] つまみを押します。

MAIN OUT 画面、または SUB OUT 画面が表示されます。



5. [1] つまみを押します。

OUTPUT SELECT 画面が表示されます。



6. [1] つまみを回します。

接続機器（アンプの種類）を選びます。

OUTPUT SELECT	説明
LINE/PHONES	ヘッドホンを使う場合や、SY-1000 をキーボード用アンプ、ミキサー、デジタル・レコーダーなどに接続する場合の設定です。
JC-120 RETURN	ローランドのギター・アンプ JC-120 の RETURN 端子に接続する場合の設定です。
JC-120 INPUT	JC-120 のギター入力端子に接続する場合の設定です。
COMBO AMP 1 RETURN	スピーカーを1発搭載したコンボ・タイプ・アンプ（アンプとスピーカーが一体型）の RETURN 端子に接続する場合の設定です。

OUTPUT SELECT	説明
COMBO AMP 1 INPUT	スピーカーを1発搭載したコンボ・タイプ・アンプ（アンプとスピーカーが一体型）のギター入力端子に接続する場合の設定です。
COMBO AMP 2 RETURN	スピーカーを2発搭載したコンボ・タイプ・アンプ（アンプとスピーカーが一体型）の RETURN 端子に接続する場合の設定です。
COMBO AMP 2 INPUT	スピーカーを2発搭載したコンボ・タイプ・アンプ（アンプとスピーカーが一体型）のギター入力端子に接続する場合の設定です。
STACK AMP RETURN	スタック・タイプ・アンプ（アンプとスピーカーが分離型）の RETURN 端子に接続する場合の設定です。
STACK AMP INPUT	スタック・タイプ・アンプ（アンプとスピーカーが分離型）のギター入力端子に接続する場合の設定です。
BASS AMP WITH TWEETER	ツイーター付きのベース・アンプに接続する場合の設定です。
BASS AMP NO TWEETER	ツイーターの付いていないベース・アンプに接続する場合の設定です。高域が補正されます。

7. [EXIT] ボタンを押します。

プレイ画面に戻ります。

ピックアップの設定をする (GK SETTING)

SY-1000 を常に最高の状態で演奏するために、ディバイデッド・ピックアップの設定をします。

SY-1000 はこの設定（GK SETTING）を 10 種類保存することができます。

ここでは、ピックアップの設定を SETTING : [1] に保存する例で説明します。

メモ

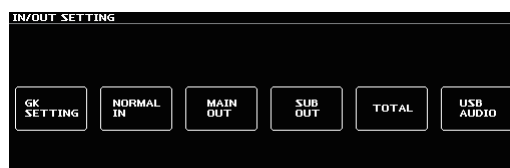
GK SETTING は電源を切っても保存されます。演奏のたびに設定し直す必要はありません。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。
2. [◀ ▶] (PAGE) ボタンを押して、[IN/OUT SETTING] アイコンを表示します。



3. [2] つまみを押します。

IN/OUT SETTING 画面が表示されます。



4. [1] つまみを押します。

GK SETTING 画面が表示されます。



5. [1] つまみを回して、SETTING : [1] を選びます。

ピックアップの設定が SETTING : [1] に保存されるようになります。

メモ

ピックアップの設定は、手順 5 で選んだ番号 (SETTING : [1] ~ [10]) に自動で保存されます。

ピックアップ・タイプを選ぶ

お使いのギター（ベース）に装着されているピックアップを選びます。

6. ギター・モード使用時は、[5] つまみを回します。
ベース・モード使用時は、[4] つまみを回します。

GK PU TYPE (ギター・モード)	説明	
GK-3	Roland GK-3 を使うときに選びます。	
GK-2A	Roland GK-2A を使うとき、またはディバイデッド・ピックアップが内蔵されたギター（市販品）を使うときに選びます。	
GC-1	Roland V-Guitar GC-1 を使うときに選びます。	
PIEZO	ピエゾ・ピックアップ	(フラット特性)
PIEZO F		Fishman
PIEZO G		Graph Tech
PIEZO L		L.R. Baggs
PIEZO R		RMC

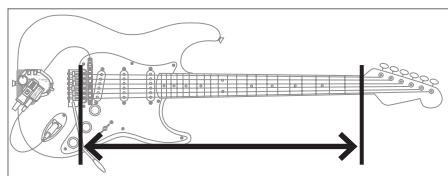
GK PU TYPE (ベース・モード)	説明	
GK-3B	GK-3B を使うときに選びます。	
GK-2B	Roland GK-2B を使うとき、またはディバイデッド・ピックアップが内蔵されたベース（市販品）を使うときに選びます。	
PIEZO	ピエゾ・ピックアップ	(フラット特性)
PIEZO G		Graph Tech
PIEZO R		RMC

メモ

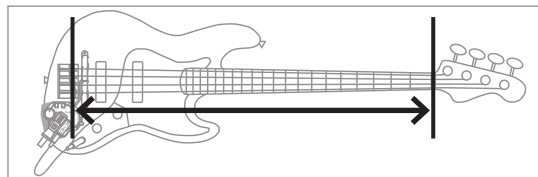
- ピエゾ・ピックアップとは、ギター（ベース）のブリッジ部分に取り付けられた、圧電素子を利用して弦振動を抽出するピックアップのことです。
- お使いのピエゾ・ピックアップがどれなのかわからない場合は、演奏しながら自然に聴こえる設定を選んでください。
- ピエゾ・タイプのピックアップを選ばと、さらに高音域や低音域の音質を調節することができます。

スケール長を設定する

お使いのギター（ベース）のスケール長（ブリッジからナットまでの長さ）を設定します。



ギター



ベース

7. ギター・モード使用時は、[6] つまみを回します。 ベース・モード使用時は、[5] つまみを回します。

お使いのギター（ベース）に応じて、長さを設定します。

ギター・モードをお使いの場合、スタンダードなストラトキャスター・タイプなら「ST (648mm)」を、レスポール・タイプなら「LP (628mm)」を選んでください。

ベース・モードをお使いの場合、スタンダードなジャズ・ベース・タイプ/プレジジョン・ベース・タイプなら「LONG JB/PB (864mm)」を選んでください。

メモ

GK PU TYPE に「Roland V-Guitar GC-1」を選んだ場合は、このパラメーターは表示されません。

ピックアップの配置を設定する (ベース・モードのみ)

お使いのベースに取り付けるディバイデッド・ピックアップの配置を設定します。

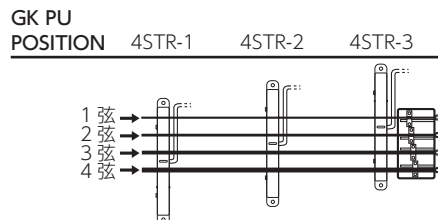
メモ

ギターにディバイデッド・ピックアップを取り付けてお使いになる場合は、手順 9「ブリッジからの距離を設定する」(P.9) に進んでください（この手順は不要です）。

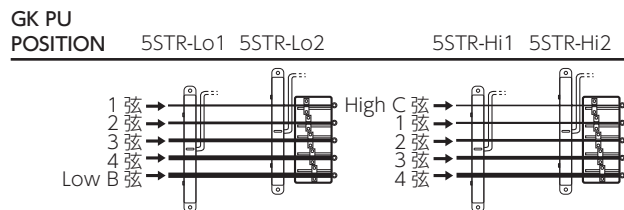
8. [6] つまみを回します。

取り付けたディバイデッド・ピックアップの配置に応じて、GK PU POSITION を設定します。

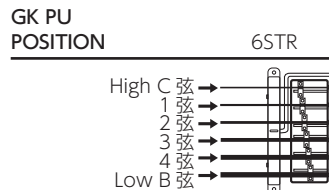
4 弦ベースの場合



5 弦ベースの場合

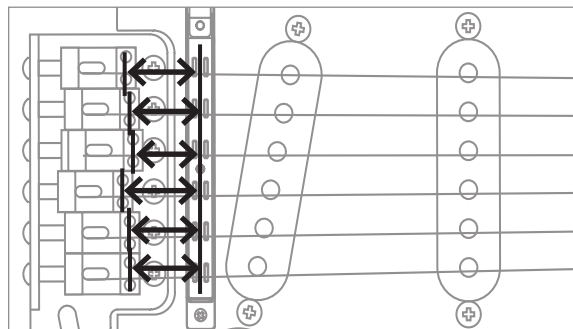


6 弦ベースの場合

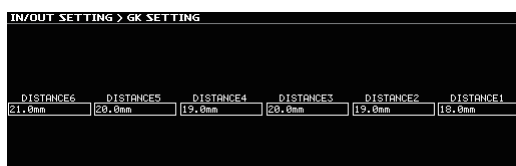


ブリッジからの距離を設定する

ブリッジからピックアップの中心までの距離を、弦ごとに設定します。



9. [◀] [▶] (PAGE) ボタンを押して、DISTANCE 画面を表示します。



10. [1] ~ [6] つまみを回します。

ブリッジからピックアップの中心までの距離を設定します。

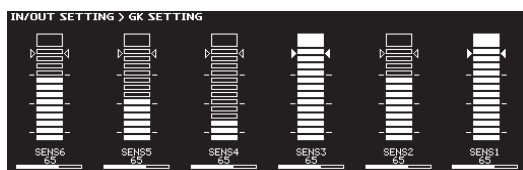
メモ

GK PU TYPE に「Roland V-Guitar GC-1」またはピエゾ・タイプのピックアップを選んだ場合は、設定は不要です。

ピックアップの感度を設定する

各弦とディバイデッド・ピックアップの距離が異なると、音量が変わります。ピックアップの感度を設定し、この音量差を補正します。

11. [◀] [▶] (PAGE) ボタンを押して、SENS 画面を表示します。



12. 強く弦を弾きながら、レベル・メーターが三角マークの位置に振れるように、[1] ~ [6] つまみを回します。

メモ

お使いのギター（ベース）によっては、感度を最低にしてもレベル・メーターが振り切れてしまう場合があります。このようなときは、ディバイデッド・ピックアップと弦との間隔を、規定よりもやや広めに調節してください。

チューニングをする (TUNER)

ギター（ベース）のチューニングをします。

SY-1000 のチューナー機能は、1 弦ごとにチューニングするシングル・モード (SINGLE MODE) と、6 弦一度にピッチを判定することができるマルチ・モード (MULTI MODE) があります。

1. BANK [▼] スイッチと BANK [▲] スイッチを同時に押します。

TUNER 画面が表示されます。

2. [◀] [▶] (PAGE) ボタンを押して、チューナーのモードを選びます。

TUNER MODE	説明
MULTI MODE	6 本の弦を同時に鳴らしてチューニングすることができます。
SINGLE MODE	チューニングする弦だけを単音で鳴らしてチューニングすることができます。

3. 弦を開放で弾き、画面中央のインジケーターだけが点灯するようにチューニングします。

チューナーの設定をする

チューナーの動作を変更することができます。

パラメーター	設定値	説明
PITCH	435 ~ 445Hz (初期値: 440Hz)	基準ピッチを設定します。
OUTPUT	MUTE	チューニング中は、音を出しません。
	BYPASS	チューニング中に GK IN 端子または GUITAR INPUT 端子に入力されたギターの音をそのまま出力します。すべての INST やエフェクトがオフの状態です。
	THRU	現在の INST やエフェクト音のままチューニングができます。

基本操作

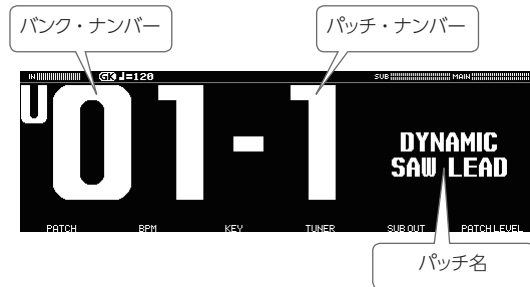
SY-1000 を操作するためのボタンやつまみの使いかた、表示に切り替えかたを説明します。

ディスプレイ（プレイ画面）

SY-1000 起動後に表示される画面を「プレイ画面」と呼びます。

画面 1

バンク・ナンバー、パッチ・ナンバーを特に大きく表示した画面です。



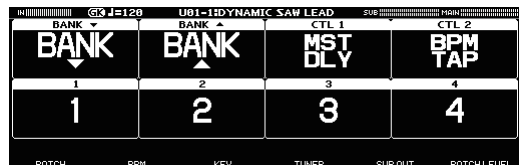
画面 2

バンク・ナンバー、パッチ・ナンバー、パッチ名を表示した画面です。



画面 3

本体のペダル・スイッチにアサインされている機能を表示した画面です。

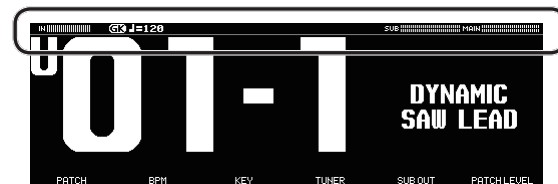


画面 4

INST とエフェクトの接続（CHAIN）を表示した画面です。



アイコンについて

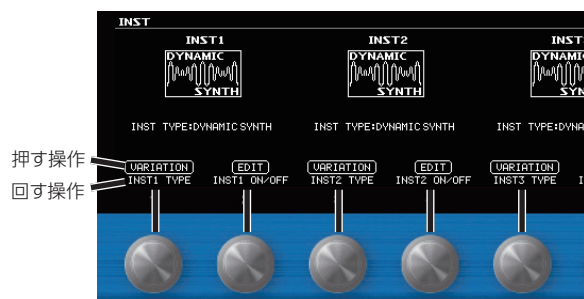


アイコン	説明
	GK IN 端子の入力レベルを表示します。 ※ ノーマル・パッチ（P.12）を使用時は、ギター信号のレベルを表示します。
	MAIN OUTPUT 端子、SUB OUTPUT 端子の出力レベルを表示します。
	RETURN 端子の入力レベルを表示します。 ※ EFFECTS エディット画面で表示されます。
	SEND 端子の出力レベルを表示します。 ※ EFFECTS エディット画面で表示されます。
	選ばれているエフェクト・ブロックの出力レベルを表示します。 ※ EFFECTS エディット画面で表示されます。
	BALANCER1-3、MIXER BALANCE を表示します。 ※ EFFECTS エディット画面で表示されます。
	テンポ（BPM）を表示します。
	テンポに合わせて点滅します。
	GK パッチ（P.12）を選んでいるときに表示します。 ノーマル・パッチ（P.12）を選んでいるときは消えます。
	画面に複数のページがあるとき、現在のページの位置を表示します。 [◀] [▶]（PAGE）ボタンで表示を切り替えることができます。

画面操作について

プレイ画面で [1] ～ [6] つまみを回したり、押したりして、ディスプレイ下部に表示されているパラメーターを調節することができます。

操作例 1 (INST 画面)

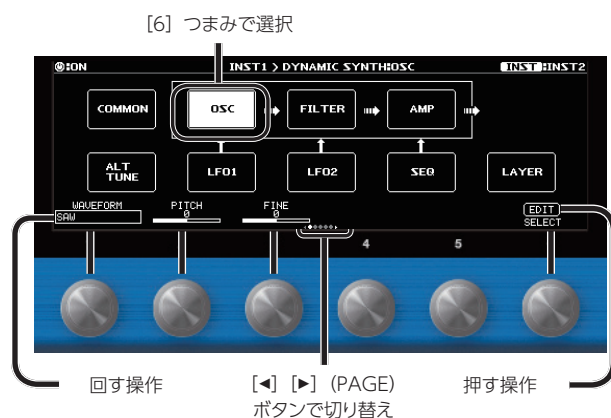


操作	説明
[1] つまみを回す	INST1 の INST TYPE を変更します。
[1] つまみを押す	INST1 の INST TYPE のバリエーションを切り替える画面を表示します。
[2] つまみを回す	INST1 のオン/オフを切り替えます。 ※ オフのときは、アイコンはグレーで表示されます。
[2] つまみを押す	INST1 のエディット画面を表示します。

メモ

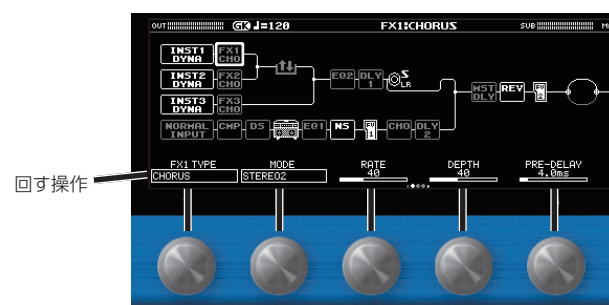
INST1 と同様に、INST2 は [3] つまみと [4] つまみ、INST3 は [5] つまみと [6] つまみで操作します。

操作例 2 (INST エディット画面)



操作	説明
[1] ～ [5] つまみを回す	パラメーターの設定を変更します。
[6] つまみを回す	エディットするブロックを選びます。
[6] つまみを押す	選んだブロックの全パラメーターが表示されます。
[<] [>] (PAGE) ボタンを押す	表示するパラメーターを切り替えます。

操作例 3 (EFFECT エディット画面)



操作	説明
[1] ～ [5] つまみを回す	パラメーターの設定を変更します。
[6] つまみを回す	エディットするブロックを選びます。
[6] つまみを押す	選んだブロックのオン/オフを切り替えます。
[6] つまみを長押しする	選んだブロックの全パラメーターが表示されます。
[6] つまみを押しながらかへす	選んだブロックの位置を変更します。

メモ

[1] ～ [5] つまみは、押しながら回すと値を大きく変更することができます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

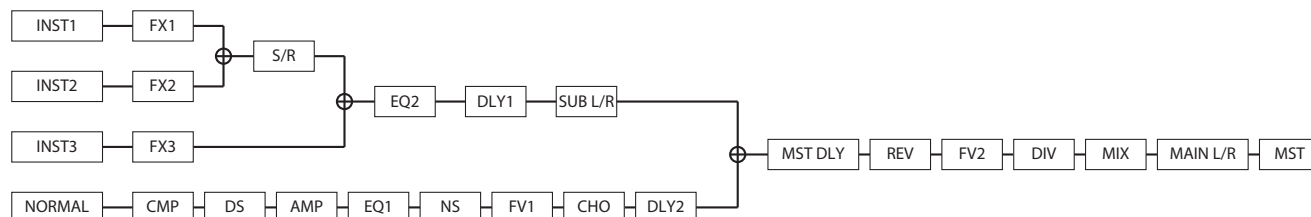
Português

Nederlands

パッチ（音色）を切り替える

SY-1000 の構成とパッチ

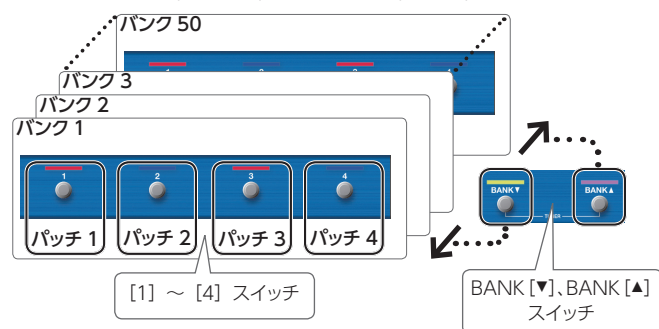
SY-1000 は、3 つの音源（INST ブロック）と、接続を自由に変更できるエフェクト（FX ブロック）で構成されています。



INST の設定、エフェクトの組み合わせをひとまとめにしたものを「パッチ」と呼びます。

また、パッチ 4 つをひとまとめにしたものを「バンク」と呼びます。

パッチはバンク（1～50）、ナンバー（1～4）で整理され、200 パッチを保存することができます。



バンクの種類について

バンクは 2 種類あります。

バンクの種類	説明
プリセット・バンク (P01～P50)	上書き保存不可能。ただし、プリセット・パッチをエディットしてユーザー・バンクに書き込むことは可能。
ユーザー・バンク (U01～U50)	上書き保存可能。

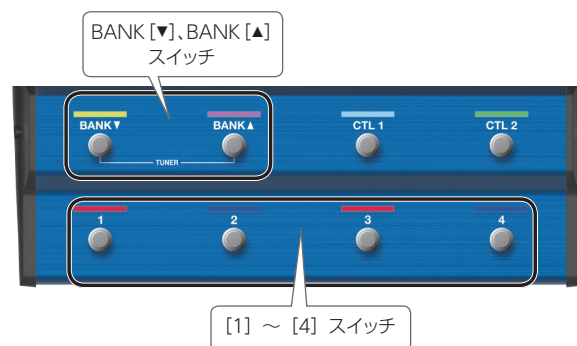
パッチの種類について

パッチの種類は 2 種類あります。

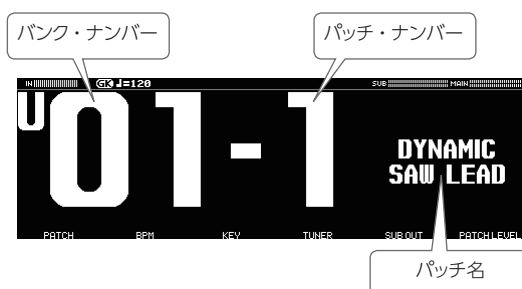
パッチの種類	説明
GK パッチ	ディバイデッド・ピックアップを使ったギター（ベース）用のパッチです。 このパッチを選んでいるときは、ディスプレイに GK アイコン GK が表示されます。
ノーマル・パッチ	GUITAR INPUT に接続した通常のギター（ベース）用のパッチです。ディバイデッド・ピックアップがなくてもお使いになれます。 また、ディバイデッド・ピックアップを経由した通常のギター（ベース）信号（ノーマル・ピックアップ）でも使うことができます。 ノーマル・パッチを選んでいるときは、GK アイコンは表示されません。 ※ ノーマル・パッチで選べる INST TYPE は、DYNAMIC SYNTH のみです。

パッチを選ぶ

パッチを切り替えると、音色が変わります。



1. BANK [▼] [▲] スイッチで、バンクを選びます。
2. [1]～[4] スイッチで、選んだバンクのパッチを選びます。



メモ

[1] つまみでもパッチを切り替えることができます。

パッチをエディットする

INST ブロックとエフェクト・ブロックのパラメーターを調整、組み合わせることで、パッチの音作りができます。

INST を変更する

1. [INST] ボタンを押します。

INST 画面が表示されます。



INST 画面では、INST1 ～ INST3 の INST TYPE が表示されます。

2. [1] ～ [6] つまみを操作します。

操作	説明
[1] つまみを回す	INST1 の INST TYPE を変更します。
[1] つまみを押す	INST1 の INST TYPE のバリエーションを切り替える画面を表示します。
[2] つまみを回す	INST1 のオン/オフを切り替えます。 ※ オフのときは、アイコンはグレーで表示されます。
[2] つまみを押す	INST1 のエディット画面を表示します。

メモ

INST1 と同様に、INST2 は [3] つまみと [4] つまみ、INST3 は [5] つまみと [6] つまみで操作します。

INST をエディットする

各 INST を細かくエディットすることができます。

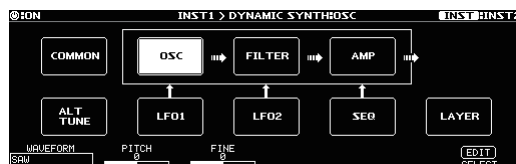
ここでは、INST1 の DYNAMIC SYNTH 画面で説明します。

1. INST 画面で [2] つまみを押します。

INST1 のエディット画面が表示されます。

※ INST TYPE によって表示される画面が異なります。

2. [6] つまみを回して、エディットしたいブロックを選びます。



選んだブロックは、白で表示されます。

3. [1] ～ [5] つまみを回して、パラメーターの設定を変更します。

メモ

- つまみを押しながら回すと、値を大きく変えることができます。
- [◀ ▶] (PAGE) ボタンを押すと、他のパラメーターが表示されます。
- エディットするブロックによって、パラメーターの数やページ数が異なります。
- エディット画面で [INST] ボタンを押すと、他の INST のエディット画面に切り替えることができます。

全パラメーターを表示してエディットする

選んでいるブロックの全パラメーターをリスト表示して、エディットすることができます。

1. エディット画面で [6] つまみを押します。

選んだブロックの全パラメーターが表示されます。



2. [1] ～ [6] つまみを回して、パラメーターを調整します。

メモ

[◀ ▶] (PAGE) ボタンを押すと、他のパラメーターが表示されます。

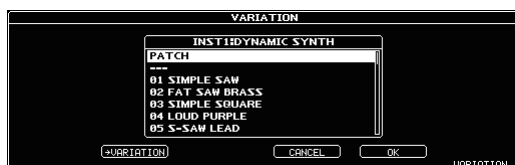
エディットした INST の設定を保存する (VARIATION)

エディットした INST の設定を「バリエーション」として保存することができます。バリエーションは他のパッチからでも使うことができるので、音作りに便利です。

ここでは、INST1 の DYNAMIC SYNTH 画面で説明します。

1. INST 画面で、[1] つまみを押します。

VARIATION 画面が表示されます。



メモ

INST のエディット画面では、以下の方法でも VARIATION 画面が表示されます。

1. エディット画面で「COMMON」を選びます。



2. [▶] (PAGE) ボタンを何回か押して最終ページを表示させます。

3. [5] つまみを押します。

2. [2] つまみを押します。

VARIATION WRITE 画面が表示されます。



3. [1] つまみを回して、保存先の番号を選びます。

4. [3] ~ [6] つまみで、バリエーション名を設定します。

5. [WRITE] ボタンを押します。

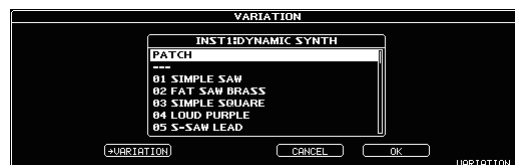
バリエーションが保存されます。

操作をキャンセルする場合は、[4] つまみを押します。

保存した INST のバリエーションを呼び出す

1. INST 画面で [1] つまみ (INST1)、[3] つまみ (INST2)、[5] つまみ (INST3) のいずれかを押します。

VARIATION 画面が表示されます。



2. [6] つまみを回して、バリエーションを選びます。

音を確認しながら、バリエーションを選ぶことができます。

3. [5] つまみを押して、選んだバリエーションを呼び出します。

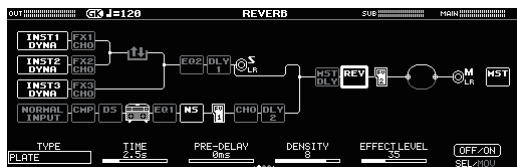
エフェクトをエディットする

エフェクトの設定や、出力、センド／リターンなどのブロック配列（エフェクト・チェーン）の並び替えをすることができます。

エフェクト・エディットの基本操作

1. [EFFECT] ボタンを押します。

エディット画面（エフェクト・チェーン）が表示されます。



2. [6] つまみを回して、エディットするブロックを選びます。

選ばれているブロックは太枠で囲まれています。

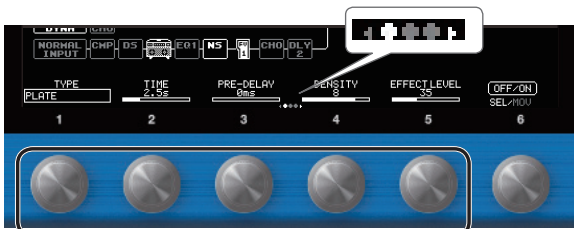


※ [6] つまみを押すと、選ばれているエフェクトのオン／オフを切り替えることができます。オフになっているエフェクトは、グレーで表示されています。オンにすると白で表示されます。

オフ オン



3. [1] ～ [5] つまみで、画面下部に表示されているパラメーターの設定を変更します。



[◀ ▶] (PAGE) ボタンでエディットするパラメーターを切り替えます。現在のページが画面下部中央に表示されます。

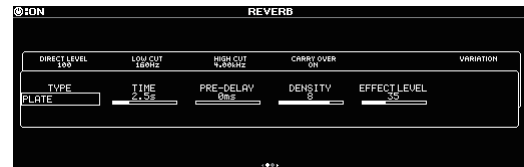
- ※ つまみを押しながら回すと、値を大きく変えることができます。
- ※ エフェクトによって、パラメーターの数やページ数が異なります。

全パラメーターを表示してエディットする

選んでいるブロックの全パラメーターをリスト表示して、エディットすることができます。

1. エディット画面で [6] つまみを長押しします。

選んだブロックの全パラメーターが表示されます。



2. [1] ～ [6] つまみを回して、パラメーターの設定を変更します。

メモ

[◀ ▶] (PAGE) ボタンを押すと、他のパラメーターが表示されます。



↑ [◀ ▶] (PAGE)
ボタンで切り替える

エフェクトを並び替える

エフェクトや、出力、センド／リターンなどのブロックの配置を移動させることにより、エフェクト順番を入れ替えたり、並列に配置したり、自由自在に配置することができます。

メモ

- INST1 ～ 3 ブロックと NORMAL ブロックは、それぞれ入れ替えができます。
- MST (MASTER) ブロックは移動できません。

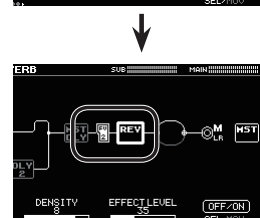
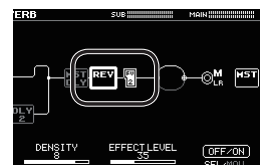
1. [EFFECT] ボタンを押します。

エフェクト・チェーンが表示されます。

2. [6] つまみで、移動したいブロックを選びます。

3. [6] つまみを押しながら左右に回します。

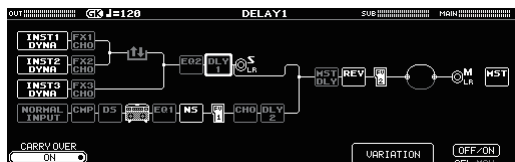
選ばれたブロックが左右に移動します。



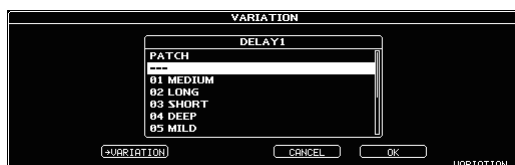
エディットしたエフェクトを保存する (VARIATION)

各エフェクトのセッティングを「バリエーション」として保存しておくことができます。バリエーションは他のパッチからでも使うことができるので、音作りに便利です。

1. [EFFECT] ボタンを押します。
2. [6] つまみで、エディットするエフェクトを選びます。
3. [◀] [▶] (PAGE) ボタンで、最終ページに移動します。



4. [5] つまみを押します。
VARIATION 画面が表示されます。



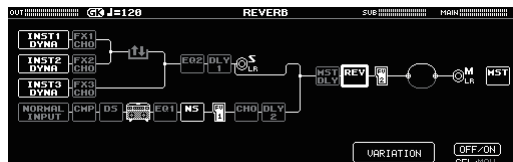
5. [2] つまみを押します。
VARIATION WRITE 画面が表示されます。



6. [1] つまみを回して、保存先の番号を選びます。
7. [3] ~ [6] つまみで、バリエーション名を設定します。
8. [WRITE] ボタンを押します。
バリエーションが保存されます。
操作をキャンセルする場合は、[4] つまみを押します。

保存したエフェクトのバリエーションを呼び出す

1. [EFFECT] ボタンを押します。
2. [6] つまみで、エディットするエフェクトを選びます。
3. [◀] [▶] (PAGE) ボタンで、最終ページに移動します。



4. [5] つまみを押します。
VARIATION 画面が表示されます。
5. [6] つまみを回して、バリエーションを選びます。
音を確認しながらバリエーションを選ぶことができます。
6. [5] つまみを押して、選んだバリエーションを呼び出します。

フットスイッチ、エクスプレッション・ペダルに機能を割り当てる

トップ・パネルにあるすべてのフットスイッチと、リア・パネルの CTL3, 4/EXP1 端子、CTL5, 6/EXP2 端子に接続するエクスプレッション・ペダルやフットスイッチ (P.4) に、さまざまな機能を割り当てることができます。



1. [CTL] ボタンを押します。

CONTROL/ASSIGN 画面が表示されます。



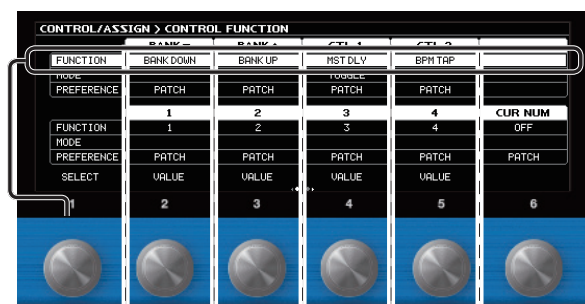
2. [1] つまみを押します。

CONTROL FUNCTION 画面が表示されます。

CONTROL/ASSIGN > CONTROL FUNCTION					
	BANK ▼	BANK ▲	CTL 1	CTL 2	
FUNCTION	BANK DOWN	BANK UP	INST DLV	BPM TAP	
MODE			TOGGLE	PATCH	
PREFERENCE	PATCH	PATCH	PATCH	PATCH	
	1	2	3	4	CUR NUM
FUNCTION	1	2	3	4	OFF
MODE					
PREFERENCE	PATCH	PATCH	PATCH	PATCH	PATCH
SELECT	VALUE	VALUE	VALUE	VALUE	

3. [1] つまみを回して、設定項目を選びます。

選択項目が縦に移動します。



選んだ項目の設定が変更可能になります。

4. [2] ~ [6] つまみを回して、各スイッチの選択項目の設定値を変更します。

メモ

- [◀] [▶] (PAGE) ボタンを押すと、他のパラメーターが表示されます。
- フットスイッチ、エクスプレッション・ペダルの機能は、パッチごとに設定する必要がありますが、PREFERENCE を SYSTEM に設定すると、すべてのパッチで共通の機能として使うことができます。

エフェクト・エディット画面からアサインを設定する (クイック・アサイン)

エフェクトのエディット画面 (P.15) で、エフェクトのパラメーターを選んで、パラメーターを好みのスイッチにアサインすることができます。

1. [EFFECT] ボタンを押します。

2. [6] つまみを回して、エディットするブロックを選びます。

3. アサインを設定したいパラメーターに対応する [1] ~ [5] つまみを長押しします。



ASSIGN MATRIX 画面が表示されます。

CONTROL/ASSIGN > ASSIGN MATRIX					
NUM	SW	TARGET	MIN	MAX	SOURCE
1	☐	INST 1 ON/OFF	OFF	ON	CTL3
2	☐	INST 1 ON/OFF	OFF	ON	CTL3
3	☐	INST 1 ON/OFF	OFF	ON	CTL3
4	☐	INST 1 ON/OFF	OFF	ON	CTL3
5	☐	INST 1 ON/OFF	OFF	ON	CTL3
6	☐	INST 1 ON/OFF	OFF	ON	CTL3
		VALUE	VALUE	VALUE	VALUE

※ ASSIGN MATRIX 画面は、パラメーター全体のリスト画面 (P.13) からでも同様の手順で表示されます。また、[CTL] ボタン → 「ASSIGN SETTING」を選んで表示されます。

4. [1] つまみを押して、SW を ON にします。

5. [2] ~ [6] つまみを回して、パラメーターを設定します。

必要に応じて [◀] [▶] (PAGE) ボタンで設定項目のページを切り替えてください。

SOURCE で、操作するペダルや MIDI メッセージなどを設定します。

パッチを保存する

INST の設定、エフェクトの組み合わせをパッチに保存することで、いつでも設定を呼び出すことができます。

パッチの設定を変更したあと、別のパッチを選ぶ／電源を切ると、パッチの設定は消えてしまいます。大事なパッチは保存しましょう。

1. [WRITE] ボタンを押します。



2. [1] つまみを押して「WRITE」(PATCH WRITE) を選びます。



3. [1] つまみで、保存先 (U01-1 ～ U50-4) を選びます。

[3] ～ [6] つまみで、名前を変更することができます。

名前を付けるには？

[6] つまみでカーソルを移動して、[5] つまみで文字を変更することで、パッチ名を変更することができます。

操作子	動作
[3] つまみを回す	文字種選択
[3] つまみを押す	一文字削除 (デリート)
[4] つまみを回す	小文字・大文字
[4] つまみを押す	一文字挿入 (インサート)
[5] つまみを回す	文字の変更
[6] つまみを回す	カーソルの移動

4. [WRITE] ボタンを押して、保存します。

パッチが書き込まれます。

操作をキャンセルする場合は、[4] つまみを押します。

SY-1000 全体の設定をする（システム・パラメーター）

SY-1000 の設定

SY-1000 全体で共通の設定をします。

各パラメーターについて、詳しくは『SY-1000 リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。



メモ

[◀] [▶] (PAGE) ボタンで、さらに項目を表示することができます。

2. [1] ～ [6] つまみを押して、設定したい項目を選びます。

サブメニューが表示されます。



3. さらに [1] ～ [6] つまみを押して、設定したい項目を選びます。

4. [1] ～ [6] つまみで、パラメーターの選択や設定値を変更します。

メモ

パラメーターの選択方法や、設定値の変更方法は、項目ごとに異なります。

本機を工場出荷時の設定に戻す（ファクトリー・リセット）

SY-1000 の設定を工場出荷時の設定に戻すことを「ファクトリー・リセット」といいます。

すべての設定を工場出荷時の設定に戻すことができますが、工場出荷時の設定に戻したい項目を指定することもできます。

※「ファクトリー・リセット」を実行すると、お客様が設定した設定は失われます。必要なデータは専用ソフトウェアでパソコンなどに保存してください。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。

2. [◀] [▶] (PAGE) ボタンで、「FACTORY RESET」を選びます。



3. [1]、[6] つまみで、工場出荷時の設定に戻す項目を指定します。

つまみ	説明
[1]	FROM を設定します。
[6]	TO を設定します。

設定値	説明
SYSTEM	システム・パラメーターの設定内容
U01-1 ～ U50-4	パッチ・ナンバー U01-1 ～ U50-4 の設定内容
VARIATION	VARIATION の設定内容

4. [WRITE] ボタンを押します。

ファクトリー・リセットを実行するときは、[6] つまみを押します。ファクトリー・リセットをやめるときは、[5] つまみを押します。ファクトリー・リセットが終了すると、プレイ画面に戻ります。

オート・オフ機能をオフにする

SY-1000 には、自動的に電源を切る機能があります。演奏や操作をやめてから 10 時間経過すると、自動的に電源が切れます。電源が切れる約 15 分前に、ディスプレイにメッセージが表示されます。

この機能は、工場出荷時には「ON」（10 時間で電源オフ）に設定されています。常に電源をオンにして使用したい場合は、「OFF」に設定してください。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。

2. [HARDWARE SETTING] → [OTHER] を選びます。

3. [1] つまみで「OFF」を選びます。

4. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

主な仕様

ボス SY-1000 : ギター・シンセサイザー

パッチ・メモリー	ギター・モード	200 (プリセット) + 200 (ユーザー)	
	ベース・モード	200 (プリセット) + 200 (ユーザー)	
AD 変換	ディバイデッド・ピックアップ	32 ビット+ AF 方式	※ AF 方式 (Adaptive Focus method) は AD コンバーターの SN 比を飛躍的に向上させるローランド／ボス独自の方式です。
	ノーマル・ピックアップ (通常のギター信号)	32 ビット+ AF 方式	
DA 変換	32 ビット		
サンプル・レート	48kHz		
規定入力レベル	GUITAR INPUT	-10dBu	
	RETURN	-10dBu	
最大入力レベル	GUITAR INPUT	+16dBu	
	RETURN	+8dBu	
入力インピーダンス	GUITAR INPUT	1M Ω	
	RETURN	1M Ω	
規定出力レベル	MAIN OUTPUT (L/PHONES、R/MONO)	-10dBu	
	SUB OUTPUT (L、R/MONO)	-10dBu	
	SEND	-10dBu	
出力インピーダンス	MAIN OUTPUT (L/PHONES、R/MONO)	44 Ω	
	SUB OUTPUT (L、R/MONO)	1k Ω	
	SEND	1k Ω	
推奨負荷インピーダンス	MAIN OUTPUT (L/PHONES、R/MONO)	10k Ω以上 (ヘッドホン接続時：44 Ω以上)	
	SUB OUTPUT (L、R/MONO)	10k Ω以上	
	SEND	10k Ω以上	
ディスプレイ	グラフィック LCD (512 × 160 ドット、バックライト付き)		
接続端子	GK IN 端子	13 ピン DIN タイプ	
	GUITAR INPUT 端子、SEND 端子、RETURN 端子、MAIN OUTPUT (L/PHONES、R/MONO) 端子、SUB OUTPUT (L、R/MONO) 端子	標準タイプ	
	CTL3、4/EXP1 端子、CTL5、6/EXP2 端子	TRS 標準タイプ	
	USB COMPUTER 端子	USB B タイプ (High-Speed USB、オーディオ、MIDI 対応)	
	MIDI (IN、OUT/THRU) 端子		
	DC IN 端子		
電源	AC アダプター		
消費電流	800mA		
外形寸法	345 (幅) × 245 (奥行) × 67 (高さ) mm		
質量 (AC アダプターを除く)	2.5kg		
付属品	AC アダプター 取扱説明書 「安全上のご注意」 チラシ 保証書 ローランド ユーザー登録カード		
別売品	ディバイデッド・ピックアップ：GK-3 (ギター用)、GK-3B (ベース用) GK ケーブル：GKC-5 (5m)、GKC-10 (10m) フットスイッチ：FS-5U、FS-5L、FS-6、FS-7 エクスプレッション・ペダル：EV-30、FV-500L、FV-500H、Roland EV-5 ユニット・セレクター：Roland US-20		

※ 0dBu = 0.775Vrms

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

安全上のご注意

警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.3)。



付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



注意

接地端子の取り扱いに注意する

接地端子ネジは、お子様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、ゆるんではずれないように確実に取り付けてください。



使用上のご注意

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

ライセンス／商標について

- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- 本製品は、T-Engine フォーラム (www.tron.org) の T-License 2.0 に基づき μ T-Kernel ソースコードを利用しています。
- Roland、BOSS は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- 本書では DSP 技術によってエミュレートされたサウンドを適切に表現するために、各社の会社名および製品名などを使用しています。

